

山の交通事故

先日の静岡芳山の車両死亡事故は全くお気の毒だった。事故の概要を報告書から拾ってみた。

7月7日、ワゴン車に7名が乗り白山に向かって出発。市内2ヶ所で買い物をして21時頃東名静岡ICを通過。ほぼ100Km/時で西進。

途中、上郷SAで休憩し運転手が交替。その際、後部の女性3名は右にひとつづつ座席を移動し遠藤が左、森が中、高橋が右席になった。結果的にはこれが運命の分かれ道となる。

その後も車は100Km/時で進み、北陸道分岐の米原JCTにさしかかった。運転手はウインカーを点滅させ、減速車線に入りブレーキを少し踏んだ。車はランプの左急カーブに向かうが、ブレーキを踏むなどの操作をせず進み続けた。しかし、左急カーブを曲がり切れず「のり面」に乗り上げガードレールに右側前部から衝突した。その勢いで車の右側全体がガードレールに当たった。そして、反動で斜面の「のり面」を後部から滑り、右を下にして横転したまま舗装路面まで滑った。23時20分だった。

その時、後部右座席でシートベルトを着用していなかった高橋洋子さんは窓ガラスを破り車外に放り出された。救急車到着の間何人かが大声で呼びかけたが反応は無かった。病院到着後医師より死亡確認の知らせがあった。

ここでは事故の原因を当事者外が軽々しく言及することは避けたいが、報告書から見えるもののみを考えてみた。①出発日時は7月7日の金曜日。食料が何か購入するため市内2ヶ所に寄り道をする慌ただしさで結局、出発は21時と遅くなる。報告書には年齢が記載されていないが、白山までの距離約400Kmを考えると、仕事上がりの時間の遅い夜行では、いかにも厳しい。私はとても自信がない。

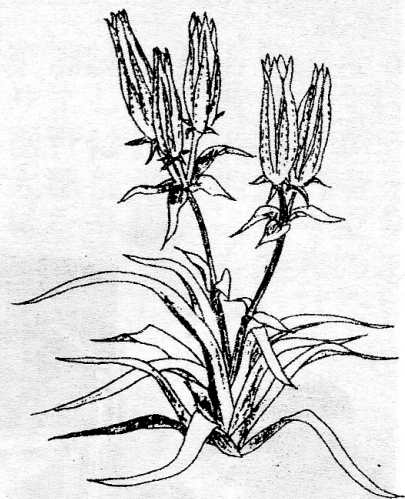
②シートベルトを締めていなかったのは残念だ。前部座席は着用するが後部座席は着用しない傾向がある。放り出されることもあるが、運転席に飛び双方が怪我をする場合が多い。

③静岡から米原JCTまで約250Kmの距離だ。上郷SAで15分休憩したとしても計算上、法定速度をかなりオーバーしている。もし、それに近い勢いでランプに進入したとすれば、当然の結果である。また、夜間の疲れは速度感、距離感を麻痺させるものだ。

最近の「山行」は車利用が多い。車は多忙な人間にとり、夜討ち朝駆け出来る便利なもの。反面リスクも多く事故った代償は大きい。私が所属する三島芳山でも過去大きな事故が何件かあった。私が会長だった時、同じ人が1日に2回事故ったこともある。

「山行」とは家を出てから家に帰るまでをいう。家まで必ず無事に帰着するのが「安全登山(山行)」だ。この事故を教訓に裾野は後部座席のベルト着用を義務としたい。合掌。

[1995・10・31]



トウヤクリンドウ

10/7 北八ツ・天狗岳にて

カッパ・米生 藤子